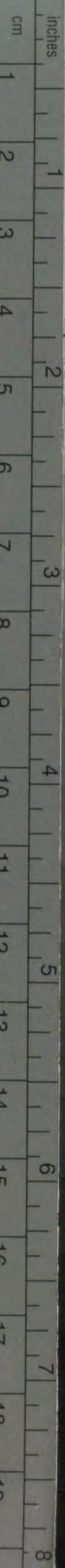


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



592
50

592-160
1200501526616

中央日報社

中央日報社附錄

發行所表

神宮司廳編纂

神宮遷宮記附錄繪卷物解說



發行所表現社

神宮遷宮記附録繪卷物に就て

一 既刊古遷宮記の別卷として古代御装束神寶圖三卷、同附録として神宮式年遷宮舊式祭典圖十卷、明治二年御遷宮圖二卷を刊行す。何れも古遷宮記の参照に資するため也。

一 神宮式年遷宮舊式祭典圖は、神宮文庫所藏神宮故事類纂の附録にして、嘉永二年式年遷宮の諸祭を圖したるもの也。神宮故事類纂は神宮司廳に於て明治三十二年着手、同四十三年、前後十二年を経て竣功せるもの、本圖はその編纂委員長たりし松木美彦、福井清生の考證に本き畫工に描かしたるもの也。

一 明治二年御遷宮圖は、明治十五六年の交、神宮司廳に於て當地の畫工喜多村豊景名、與、太、治、を、して、描、か、し、め、た、る、も、の、現、に、神、宮、文、

庫に藏す。

一 古代御装束神寶圖は小職之を解説し、舊式祭典以下繪卷の解説は神宮禰宜御巫清白の手を煩はしたり。

昭和七年十二月

神宮禰宜 阪本廣太郎

神宮遷宮記附録繪卷物解説 目次

神宮式年遷宮舊式祭典繪卷解説

凡 例

皇大神宮式年遷宮舊式祭典

造宮使拜賀宣旨拜覽圖

山口祭玉串行事所圖

山口祭饗膳圖

山口祭岩井田山圖

山口祭檜尾山心御柱行事圖

御樋代木川曳圖

御樋代木内院曳入圖

一 七 八 九 〇 一 二 三

御用材川曳圖
木作始一殿行事圖
御形祭圖
地鎮祭圖
立柱祭圖
上棟祭圖
蔓祭
清鉋祭圖
御船代祭圖
御樋代洗清圖
洗清圖
心御柱祭圖
杵築祭荒祭拜所圖

一四
一五
一七
一八
一九
二〇
二二
二三
二四
二五
二五
二六
二七

杵築祭內院圖
杵築祭大和舞圖
讀合齋王候殿圖
川原祓祓所圖
川原祓內院運送圖
御飾圖
遷御內院圖
遷御新殿渡御圖
賀參圖
古物渡圖

二八
二九
二九
三〇
三一
三一
三二
三三
三六
三七
三八

豐受大神宮式年遷宮舊式祭典
造宮使拜賀饗膳圖

四〇

山口祭中重玉串奉奠圖 四〇
 山口祭宣旨拜覽圖 四一
 山口祭祭場行事圖 四二
 御祝木禰宜點檢圖 四三
 御祝木玉串御門前請取行事圖 四四
 御用材宮川木上圖 四五
 木作始中重行事圖 四六
 御形祭圖 四八
 地鎮祭圖 四八
 立柱祭圖 四八
 上棟祭圖 四九
 木本祭圖 五一
 蔓祭圖 五二

清匏祭圖 五二
 御船代祭 五四
 御樋代洗清圖 五五
 洗清圖 五五
 心御柱祭圖 五六
 杵築祭大場行事圖 五七
 杵築祭玉串御門前圖 五八
 杵築祭內院圖 五八
 讀合玉串行事所圖 五七
 御飾圖 六一
 廳舍內召立圖 六二
 川原祓三ッ石圖 六三
 遷御內院圖 六四

遷御新殿渡御圖
古物渡圖
賀參圖

六五
六六

明治二年式年御遷宮繪卷解說

凡例

皇大神宮遷御之圖
豐受大神宮遷御之圖

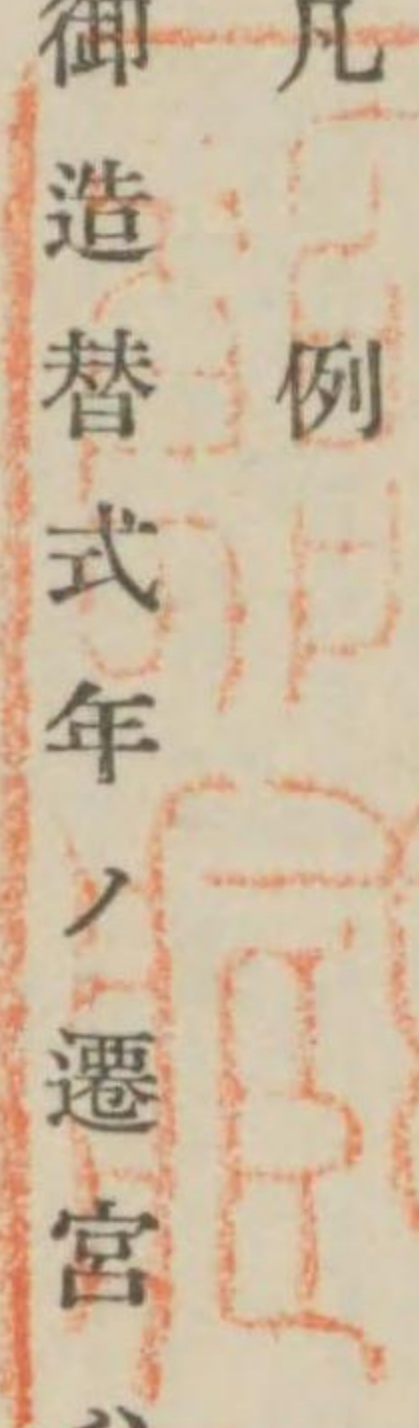
六九
七一
七三

神宮遷宮記別卷繪卷物解說

皇大神宮承安元年正遷宮御裝束繪卷物
豐受大神宮永久四年正遷宮御神寶繪卷物
豐受大神宮永久四年正遷宮御裝束繪卷物

七七
七九
八二

神宮式年遷宮舊式祭典繪卷解說



凡例
一 神宮御造替式年ノ遷宮ハ、左記ノ如ク數年ニ涉ル數十回ノ祭典ヲ經テ成就ス。其内儀式ノ顯著ナルモノヲ掲ゲ、然ラザルモノハ之レヲ省ク。

一 御造替遷宮祭典左ノ如シ

祭典年月	祭典ノ名稱	
	皇大神宮	豐受大神宮
天保十三年三月八日	山口祭	山口祭
同	檜木尾山行事	

同	年十一月廿八日	御祝木宮中引入	
同	年十二月八日		御祝木宮中引入
天保十四年	二月八日	御用材引始	
同	年二月十日		御用材引始
同	年三月五日	木作始	木作始
弘化五年	嘉永元年三月四日	御形祭	御形祭
嘉永二年	正月廿五日	地曳祭	地曳祭
同	年二月十二日	立柱祭	立柱祭
同	年二月廿七日	上棟祭	上棟祭
同	年五月廿一日		木本祭
同	年六月八日	蔓祭	
同	年六月九日		蔓祭

同	年七月五日	御祝木鏘始	
同	年七月八日		殿内秘事御細工始
同	年八月九日	御船代祭	
同	年八月九日	清 匏	
同	年八月十一日	洗 清	
同	年八月十二日	心御柱祭	
同	年八月十七日		御船代祭
同	年八月十八日		洗 清
同	年八月十九日		心御柱祭
同	年八月廿一日	御樋代洗清	
同	年八月廿三日		杵築祭
同	年八月廿七日	裁 縫	

同	年八月廿九日	杵築祭	
同	年九月一日	讀合神事	
同	年九月一日	河原祓	
同	年九月一日	御飾	
同	年九月二日	遷御	
同	年九月二日		黄金御樋代清
同	年九月三日	一社奉幣	
同	年九月三日	古物渡	
同	年九月三日	賀參	
同	年九月四日		讀合
同	年九月四日		御飾
同	年九月五日		御饌殿御飾

同	年九月五日		裁縫
同	年九月五日		川原祓遷御
同	年九月五日		後鎮祭
同	年九月六日		古物渡
同	年九月六日		大殿拂
同	年九月七日		一社奉幣
同	年九月七日		賀參

一 神宮式年遷宮御祭典ニシテ兩宮同様ノモノハ、一方ヲ記シテ重複ヲ省キタリ。其他兩宮ニ涉ル取捨繁閑ノ目途ハ神宮故事類纂附録舊式祭典ニ同ジ。

一 此圖ハ嘉永二年御造替式年遷宮ノ儀式ニ依ル。維新ノ際明治二年ノ御遷宮アリト雖モ、神祇官ニ於テ之ヲ行ヒ、其儀式前例ニ異ナルモ

ノ多キ爲メナリ。

皇大神宮式年遷宮舊式祭典

造宮使拜賀宣旨拜覽圖

(此圖第一卷第二圖ニアリ、行事ノ順序上其ノ方然ルベシ)

造宮使ハ、遷宮毎ニ中臣氏人中ヨリ撰定セララル、古例ナレドモ、後ニハ先ヅ祭主ヘ宣下セラレ、祭主故障アレバ、大宮司ヘ臨時宣下セラレ、祭主故障消滅ノ後ハ辭職シテ、重ネテ祭主ヘ宣下セララル、例ナリ。此度嘉永度ノ如キハ、天保年中山口祭ノ時日宣下ノ期節、造宮使モ宣下セラレ、山口祭ニ參向ノ際、祭日前ニ拜賀アリ。參拜終テ一殿ニツキ、先ヅ宣旨ヲ拜覽セシム。此圖ハ大宮司ノ政所之ヲ受ケ、宮司拜覽ノ所ナリ。其レヨリ禰宜拜覽シ、次ニ饗膳アリ。造宮使ハ北座シ、禰宜南座シ、宮司ハ東座ス。皆束帶ナリ。殿外ニ北座スルハ、造宮使政

所、目代二人。又南座スルハ宮廳政所一人、祇承二人ニテ、同南方ナル
ハ家司衣狩ナリ。

山口祭玉串行事所圖

(此圖亦同卷第三圖ニアレドモ、第二圖トナ
スベクナホ標題中「行」ノ下ニ「事」ヲ脱セリ)

山口祭ハ、御袖入りノ爲山口ノ神ヲ祭ルナリ。昔ハ皇大神宮御袖ハ
神路山ナリ、後沿革シテ徳川氏ノ時ニハ木曾山濃信大杉谷伊勢等ヲ御袖
トシ、多クハ木曾山ナリシナリ。又山口祭ノ時期ハ、前式年遷宮ヨリ
十七年目ニ行ハル、事ナレドモ、今ハ前遷宮ヨリ拾四年目ニ行ハル
、ナリ。是古昔ハ御袖モ遠隔シタル等ノ都合ニ依ルナリト云フ。
此圖ハ、造宮使參向シ、二鳥居ニテ御鹽湯アリ、次ニ玉串行事所ニテ行
事ノ圖ナリ。北側造宮使、大宮司東東上ニ列立、禰宜東禰宜東權官衣冠冠衣西上ニ
列立シ、南側ニ玉串大内人、權官二人、山向内人各衣冠着座シ、祇承二人衣冠

其東ニ列立シ、出納二人張白其西ニ蹲踞ス。今造宮使手水ノ爲メニ權
官ノ前ニ進ム所ナリ。又第四御門ニ列立スルハ子良物忌父ナリ。

山口祭饗膳圖

(此圖亦同卷第一圖ニアレ
ドモ、第三圖トナスベシ)

前圖玉串所ノ行事終リ、中重ニ於テ神拜ノ後、一殿ニ於テ饗膳アリ。
古昔造替ヲ五期ニ分チ進行シ、毎期一回ヅ、大饗アリテ、山口祭ニハ
第一期ノ大饗ヲ行ハル。此殿ノ饗膳ハ其遺意ナリトス。此圖一殿
東座ハ造宮使及大宮司、北座ハ禰宜及玉串大内人、西座ハ子良物忌父。
正物忌衣冠淨衣冠、南座ハ神宮政所、權官、大宮司目代各衣冠造宮使政所東帶ナリ。
此圖ハ一禰宜造宮使ニ勸盃シ、權官酌ノ所ニシテ、殿外西砌東面ニ蹲
踞スルハ祇掌人各衣冠權官西北西北砌ニ南面スルハ小内人衣布ナリ。

山口祭岩井田山圖

岩井田山ハ、今ノ宇治山田市大字館町ニアリ、皇大神宮御山ニ接續セ
ル山ナリ。此圖頭工等岩井田山ニテ山口祭ヲ行フ所ナリ。神宮ノ
工事ヲ擔當スルモノ、之ヲ作所ト稱シ、作所ノ下ニ頭工ナルモノアリ。
頭工分レテ四組ト爲リ、一頭、二頭、三頭、四頭ト稱シ、頭毎ニ頭一人、頭代
一人、小工九人ヅ、アリ。頭代以上ハ神職又師職ノ家ヨリ勤メ、小工
ハ偶素人株ナルモノアルモ、多ク木工ノ身分アル者ヨリ之ヲ勤ム、皆
其家ノ持株ナリ。祭日山ニ祭場ヲ設ケ、各頭唐櫃ヲ置並べ、其上ニ神
饌ヲ備へ、頭、頭代神酒ヲ奠シ、一頭祝詞ヲ讀ミ、一同奉拜、次ニ饗膳アリ。
此圖東側ナル座列ハ一頭及三頭ニテ、一頭ハ南ヲ上トシ、三頭ハ北ヲ
上トシテ着座ス。乃チ東側ニ於テ、一頭及一頭ノ小工ニ神前行夏中
ナルヲ以テ、座ニ空位アリ。又西側ナルハ、二頭ハ南ヲ上トシ、四頭ハ

北ヲ上トシテ着座ス。座列ノ空位東側ニ同ジ。又衣帶ハ頭ハ衣冠、
頭代ハ淨衣、小工ハ素襖烏帽子、各明衣ヲ着ク。明衣ハ白布ヲ疊ミ、左
肩ヨリ緋ノ如ク懸タル者是ナリ。又頭工ノ祭場ノ西ナルハ、忌鍛冶
ノ祭場ナリ。忌鍛冶モ亦必ズ其職工ナラズ、師職以上ノモノ之ヲ勤
ム。下役ハ職工ニシテ、衣帶ハ忌鍛冶ハ衣冠、下役ハ素襖烏帽子ニシ
テ、明衣ヲ掛ク。祭法頭工ニ准ズ。

山口祭檜尾山心御柱行事圖

檜尾山ハ、宇治山田市大字浦田町ニアリ。山口祭ノ夜、心御柱ヲ採奉
ル行事アリ。心御柱ハ正殿重要ノ神柱ニシテ、此御柱ノ料材ヲ撰擇
スルニハ、山口祭ノ年正月頃ヨリ、宮城ナル御山ハ勿論、宮山ナラザル
山ニモ立入り、搜索スル例ニテ、御料決定ノ上ハ、其山主ニ通達シ、其年

ノ夏ニ至テ之ヲ伐リ、心御柱祭ノ期節迄、御稻御倉ニ納メ置ク。但心御柱ハ宇治檜尾山ニ奉探スル古例ナルニ付、同山ニ於テモ副木ヲ撰擇シ置キ、他山ニテ伐採ノ木ハ、一旦之ヲ檜尾ニ渡シ奉リ、副木ノ處ニテ伐採ノ式ヲ行ヒ、然ル上御稻御倉ニ納ルナリ。此圖ハ山口祭ノ夜檜尾山ニテ式ヲ行フ所ニシテ、副木ノ前ニ神饌ヲ供シ、玉串大内人祝詞ヲ讀進ス、大物忌父衣冠ハ修祓、忌部衣冠ハ奉探ノ所役ニ從フ。但山口祭ノ夜ハ、只儀式ノミテ、實際之ヲ伐ルハ、夏期土用十三日目ニ之ヲ行フナリ。

御樋代木川曳圖

御樋代木ハ、山口祭ノ年木曾山々入後、第一着ニ木本祭ヲ行ヒ、之ヲ伐ル。之ヲ御祝木ト稱ス。大湊へ着岸ノ上、日ヲ定メテ川曳、宮中へ曳

入ル。定日鷄鳴後祝木迎トシテ、權官及役人等出張、鹿海貯木場ヨリ、五十鈴川通中村ニテ晚景ヲ待ツ。此處ニテ追付、宮中へ曳入可申旨、一禰宜家子ノ禰宜ノ通牒ヲ得、酉初刻過御川ヨリ豊受御前ノ西ノ處ニ引上グ。人夫ハ神宮家及神宮附屬家又作所ヨリ出ス。皆白衣袴ヲ着セシム。此圖ハ中村ヲ發シテ宇治大橋ニ達シタル所ニテ、東涯ヲ行クハ作所、小作所各直垂ノ一列、又西涯ヲ行クハ權官直垂役人斗目麻刀上ノ一列ナリ。又西岸ニ神宮家及宇治年寄家以下町家有志ノ輩、各家紋ノ高張挑灯ヲ建テ、其他拜見人群集ノ景況ハ、之ヲ略ス。又本日ハ山田奉行モ宮中ニ出張セリ。

御樋代木内院曳入圖

御樋代木五十鈴川通御川ニ至リ、豊受御前ノ西ノ處へ曳上グ、包菰ヲ

替へ、麻繩ヲ延置、出納内人禰宜ニ報ズ。禰宜冠衣權官直垂子良物忌父衣淨等參進、冠木鳥居ノ下ニ列立ス。御鹽湯、大麻内人冠各衣御鹽ヲ行フ。次ニ禰宜以下麻綱ヲ把テ、之ヲ曳ク事三度、終テ中重ノ石壺ニ列立ス。次ニ子良物忌父御門ヲ開キ、作所同御門迄荒菰ヲ敷キ、宮人襖素御樋代木ヲ、東寶殿ノ御床下ニ曳納ルナリ。禰宜二人御内ニ入テ之ヲ檢分シ、次ニ禰宜一同石壺ニテ奉拜、式終ル。

御用材川曳圖

山口祭ノ翌年、木作始メヲ行ハル。御用材ハ、山口祭ノ歳ニ、木曾御杣ニ入り、追々伐出シ、大湊へ着岸ノ上、兩宮ノ木分ケヲ爲シ、皇大神宮分ハ、之ヲ鹿海貯木場ニ回シ、同所ヨリ宮中ニ引入ル。之ヲ御木曳ト云ヒ、五十鈴川ヲ引上ルヲ以テ、又之ヲ河曳ト云フ。御木曳ノ初日ヲ八

郷引ト云、舊内宮領ノ町在出デ、之ヲ引クノ謂ナリ。次日以後ハ、便宜出デ、之ヲ引ク。町在各旗幟等ヲ立、又揃へノ衣装ヲ着テ、之ニ從フ。但シ宮域外ハ、宇治年寄側ノ取締ニ屬シ、神宮ニ關係ナシ。但シ御用材手水遣ヒ場へ引付、其レヨリ二鳥居ニテ御鹽アリ。内一本ハ櫻宮ノ南へ置ク、木作始メノ料材ト爲ルナリ。禰宜權官ヲ具シ、一殿ニ着キ、御木曳初ヲ點檢ス。此圖ハ五十鈴川ヲ引上ル宇治大橋下ノ景況ナリ。

木作始一殿行事圖

木作始ハ、山口祭ノ翌年、之ヲ行ハル。日時ハ宣下。其日造宮使參宮、二鳥居ノ御鹽、玉串行事所ノ手水中重神拜終ル後、一殿ニ着キ、大宮司禰宜先ヅ日時ノ宣旨ヲ拜覽シ、次ニ造宮使以下ノ饗膳アリ。即チ第

二ノ大饗ナリ。同時ニ頭々代等一殿ノ前ニテ、木作始ノ式ヲ行フ。此圖即チ之ナリ。

殿内ニ於テハ、造宮使、大宮司各束ハ北ヲ上トシテ東座シ、禰宜、玉串大内人束東ヲ上トシテ北座シ、子良物忌父北ヲ上トシテ西座シ、宮廳政所、權官一二臈、及造宮使目代各衣冠政所束ハ西ヲ上トシテ南座ス。此圖ハ日時ノ宣旨拜覽終テ、未ダ饗膳ニ著カザル時ナリ。又殿外ニ蹲踞スルハ、權官三四臈祇承ナリ。

殿外ハ、頭、頭代、小工等木作始メノ式場ニシテ、東方ニ一ヨリ四迄ノ唐櫃ヲ居エ並べ、上ニ神饌ヲ備ル事、山口祭ノ如シ。其前南北兩側ニ頭、頭代、小工一二三四方ノ順ニ依テ着座頭衣冠、頭代淨衣、各明シ、其中間ニ木作始メノ御用木ヲ置ク。頭以下唐櫃ノ前ニ進ミ、神拜ノ後、小工ノ工老、手銚ヲ御料木ノ中程ニ掛置ク。一二三四方ノ頭進テ手銚ヲ取り、左右中央ヲ打テ、故ノ如ク掛置ク。次四方ノ頭代、次ニ四方ノ小

工四人ヅ、手銚ヲ打ツ事頭ノ如クシ、末座ノ小工手銚打終テ、之ヲ其方々ノ唐櫃ノ上ニ飾リ歸座、一同伏拜、終テ饗膳アリ。一殿ノ饗膳終ルノ時分、頭工ノ饗膳モ亦終リ、禰宜退出ノ後、頭工モ亦退出ス。此圖ハ頭工ノ御料木ヲ打ツ所ナリ。東方ニ唐櫃一合ヲ置キ其前ニ坐セテ黒袍三人ハ忌鍛冶内人、素襖三人ハ下役ナリ。

御形祭圖

御形祭ハ、古昔重要ノ式ナレドモ、今ハ其彫入方モ中絶シタルヲ以テ、作所ニ於テ正殿ノ地棟組立ノ時、作所狩及作所役人麻上頭、頭代各淨小工素襖等、御細工小屋内ニテ、形ノ如ク之ヲ行フノミ。御細工小屋ノ位置ハ、實際北面ニシテ、南面ハ板張ナレバ、中ノ景況ヲ寫シ得ザルヲ以テ、此圖ハ反對ニ之ヲ製リタリ。然レドモ尙御小屋物兩妻ニ供フ

ル一二三四頭ノ神饌ハ、御小屋物ト小工着座ノ爲メニ、詳ニ描シ能ハザルナリ。乃チ小工ノ工老、神酒ヲ供シ式終ルナリ。

地鎮祭圖

御遷宮ノ年ニ行ハル。日時ハ宣下ナリ。期日玉串内人祭場ヲ整理ス。祭場ハ新殿ヲ建設スベキ正殿ノ舊地四方ニ、白布ヲ敷回シ凡南四間東西其圍内ニ又布ヲ敷ク三條、以上各幅而シテ神饌ヲ舊心御柱前及敷布ノ四隅ニ供シ、五色幣各一本ヲ立東南赤、西南黃、西北黑、北東青、又中央白、各白丁之ヲ捧ゲ持ツ。又心御柱ノ前ニ散供ヲ置キ、其前ニ軾布備へ、終テ乾位ノ敷設ニ座ス。禰宜、權官、子良物忌父、作所、小作所等參拜終テ、祭場ニ著ク。禰宜御瑞垣跡東上北面。權官垂直二人禰宜ノ西、同五人其背後ニアリ。作所、小作所垂直權官ノ次ニアリ。其背後ニ地均役二素人十侍ス。又西側ニ子良

物忌父淨衣南上東面、少シ引下リテ忌鍛冶下麻上又子良物忌父ノ並ニ、頭代、小工下麻上列座ス。又家司衣狩ハ禰宜ノ背後ニアリ。座定テ、玉串大内人束帶心御柱前ノ軾ニ進ミ、散供、祝詞讀進、次ニ中央及四隅ノ幣ヲ捧持テ行事、終テ復座ス。次ニ神饌五色ノ幣ヲ撒シ、次ニ地均役人二人ヅ、忌鍛ヲ持チ、心御柱前即チ中央並ニ四隅ノ地均行事アリ、事終テ衆員退出。

立柱祭圖

御遷宮ノ年行ハル。祭日ハ宣下ナリ。祭日禰宜冠衣權官垂直作所冠衣小作所垂直子良物忌父淨衣中重神拜ノ上、祭場ニ至ル。先是工老四個ノ唐櫃ヲ正宮御柱ノ前ニ備へ、其前ニ着座、一方三方ハ東座、二方四方ハ西座各素頭々代忌鍛冶上各麻ハ西方ニ着座ス。禰宜以下座定テ後、四方

ノ工老進テ御柱ヲ固ム。次ニ又工老四人ノ内、二人ヅ、御柱ノ前ニ進ミ、南側北側ノ大間柱及ビ四隅ノ柱ニ、合槌ヲ奉仕スル事三回、次ニ神饌ノ唐櫃ノ前ニ至リ、神酒ヲ奠シ奉拜復座、式終ル。此圖ハ一二頭ノ工老ハ南側ノ大間柱ニ、三四頭ノ工老ハ北側ノ大間柱ニ、合槌ノ所ナリ。又禰宜ノ東南少シ去テ着座スルハ、山田奉行麻上及其役人ナリ。

上棟祭圖

御遷宮ノ年、立柱祭ノ後ニ行ハル。祭日ハ宣下ナリ。祭日弓矢ヲ御屋根東西ノ兩端ニ飾リ、神饌ヲ新建正殿ノ下ナル一三三四頭ノ唐櫃ノ上ニ備フル事、立柱祭ノ如シ。刻限禰宜參宮、中重神拜ノ後、新宮地ノ假石壺ニ着キ、小作所ノ申告ニ

依テ、更ニ祭場ノ鋪設ニ着ク蕃垣御權官以下御造宮役何レモ座定リ、小作所一禰宜ノ示命ニ依リ、工老ヲシテ正殿瑞垣ノ中間、古法ニ相違ナキヤヲ檢セシメ、之ヲ一禰宜ニ報ズ。一禰宜上棟行事ヲ始メシム。次ニ工老小工ト御屋根ニ上リ、又小工博士木本ヲ瑞垣御門址ニ建テ、御棟木ニ結ビタル白布二條ヲ、御屋根ヲ延テ、博士木ニ結ビ付ク。次ニ一頭代二頭代紳ヲ取テ、二條ノ布ノ中間ニ立ツ。次ニ禰宜束政所淨權官冠衣玉串冠衣作所冠衣子良物忌父淨衣家司冠衣各座ヲ起テ、打替リ打替リ北ヲ上トシテ二列ニ相對シ、二條ノ白布ヲ取ル。又頭四人冠衣頭代淨衣小工素襖ハ南ヲ上トシ、上ニ同ジク布ヲ手ニ取ル。次ニ小工ノ工老、御棟木ヲ仰テ、千歲棟萬歲棟曳々億々棟ト呼ブ。呼ブ毎ニ御屋根ニ於テ、小工御棟ヲ打ツ。畢テ各本座ニ歸ル。次ニ頭新建正殿ノ前ニ進ミ奉拜、頭代小工等神饌ヲ供シ、一頭祝詞ヲ讀進シ、頭、頭代、小工奉拜シテ、式全ク終ル。

躰祭

御躰ノ金物ヲ打初メ奉ル式ナリ。先ヅ頭工等覆板波金物二枚、千木逆輪二枚、吳形下金物二枚ヲ御階ニ飾リ、神饌ヲ供シ、一頭三頭ノ工老ハ西面、二頭四頭ノ工老ハ東面ニ、御階ノ下東西ニ着座ス何レモ素次ニ禰宜一人冠衣政所衣淨家司直參宮神拜ノ後、祭場ニ來テ北面ニ着座。頭々代孰上レモハ西ノ方ニ着座ス。次頭々代小工等進テ御階下ニテ奉拜。次ニ工老神酒ヲ供ス。次一頭方二頭方工老一人ヅ、鎚釘ヲ以テ御屋根ニ上リ、三頭方四頭方工老、覆板ノ波金物ヲ一枚ヅ、持テ御屋根ニ上リ、御屋根ノ上ナル一頭方工老ニ渡シ、一頭方工老ハ、之ヲ東ヨリ第四第五鯉木ノ間ノ覆板ニ打チ奉リ、式終ル。禰宜ハ退出シ、工老ハ留テ神酒ヲ直會ス。此圖屋上ニテ、御金物ヲ受授スル所ナリ。

清匏祭圖

正殿落成シ、殿内ニ清メノ匏ヲ行フナリ。禰宜冠衣作所代冠衣小作所冠衣參宮、中重神拜ノ後、新殿瑞垣ノ内ニ着座北面。頭冠衣頭代衣淨小工素同所東西ニ分レテ着座。次ニ作所、小作所持御大床ニ候シ、一頭代ヲシテ御鑑穴ヲ穿奉ラシメ、作所小作所相共ニ御鑑ヲ合セ、御扉ヲ開キ、頭工等ニ殿内ノ清匏ヲ命ジテ、殿内ニ入ル。次ニ一頭ノ頭頭代二人、殿内ニ清匏ヲ奉仕シテ退下。頭頭代以下小工悉皆二人ヅ、殿内ニ參入シテ、同ジク奉仕ス。次ニ作所御扉ヲ閉ヂ御船鑱ヲ掛ケ、終テ作所、小作所大床ヲ退キ、御鑰ヲ櫃ニ納ム。次ニ禰宜退出。作所、小作所尙祭場ニ留マリ、神饌ヲ供シ、終テ作所退出。次小工直會行事アリ、小作所之ヲ見知ス。此圖ハ、一頭代御扉ニ御鑑穴ヲ穿チ奉ル所ナリ。

御船代祭圖

新殿内ニ、新御床御船代ヲ運入レ奉ル行事ナリ。禰宜冠衣中重神拜ノ後、祭場ニ着ク。次ニ一禰宜、作所ヨリ御鑰ヲ受取り、手扶禰宜ト共ニ昇殿、御扉ヲ開キ、殿内ニ入り、手扶ハ退下ス。次ニ禰宜、作所、小作所昇殿殿内ニ入り、作所大床ニ出デ、御船代ヲ納ムベキ由ヲ仰ス。頭工等東寶殿ヨリ、御料ノ御床、御船代、東西相殿ノ御床、御船代、燈臺等兼日調製シテ東寶殿ム殿ヲ昇キ運ビ、禰宜、作所等之ヲ受取り、新殿ニ納ム。納終テ各退下。一禰宜ハ、手扶禰宜ト共ニ、御扉ヲ鎖シテ退下シ、一同正宮ヲ一拜シテ退散ス。此圖ハ大床ニ候スルハ禰宜、御階ニ候スルハ權官上首二作所冠衣小作所衣淨ニシテ、小工等ノ運ビ來ル御調度ヲ受取り、殿内ニ運ビ又ハ之ヲ取次グ。階下ナルハ小内人ナリ。

御樋代洗清圖

御樋代ハ、黄金ヲ以テ作り、最重要ノ御調度ナレバ、御細工中其取締最嚴重ナリ。御細工終了、作所ヨリ之ヲ一禰宜ニ交附シ、禰宜夜中正宮正南ノ御川ニ至リ、之ヲ洗清ム。此圖其所ニシテ、岸上ニ蹲踞スルハ上座、川中ニ洗清ヲ勤仕スルハ末座ノ禰宜ナリ。

洗清圖

御樋代及正殿内ヲ、洗清メ奉ル式ニシテ、禰宜作所等中重神拜例ノ如ク終テ、祭場ニ進ミ、禰宜、作所小作所殿内ニ入テ檢知シ、子良物忌父御樋代ヲ始メ殿内大床以下ヲ洗清ム。但物忌父正方ハ、殿内洗清ニ奉仕シ、副方ハ水小堀白布等ヲ殿内へ運ビ、清酒作、酒作内人ハ階下迄水

以下ヲ運ブ物忌父、内人、執レモ、淨衣。此圖、大床ノ上ニ檢知スルハ禰宜冠衣洗清ニ從フハ物忌父、水ヲ運ブハ副物忌ニシテ、階下西ニ列立スルハ酒作、清酒作内人、器ヲ持テ階上階下ニアルハ副物忌、又御鹽ヲ持テ階下ニ蹲踞スルハ御鹽湯内人冠衣タリ。コノ御鹽ハ子良物忌父此ヲ受取テ、殿内ヲ清ムル爲ナリ。又階下ニアル白張二人ハ出納内人ナリ。

心御柱祭圖

一禰宜帶束二禰宜ヨリ十禰宜迄手扶冠、皆政所淨衣子良、物忌父扶一、藹、衣、冠、手御筥作内人淨衣、覆手袋、山向内人衣冠、明衣、手袋、出納張白奉仕ス。祭典ニ先チ、新正殿ノ下ニ白布幕ヲ張ル。禰宜正宮參拜ノ後、御裏御門ヨリ御内ニ參入シ、御階ノ下ニテ伏拜、禰宜、大物忌父幕ノ内ニ入ル。御筥作内人此御筥作ハ忌ヲ部以テ忌部ヲ兼ム、出納ヲ率キテ、御機殿ニ至リ、御柱

ノ材料ヲ持參シ、次ニ之ヲ飾リ立奉ル。子良物忌父神饌ヲ供シ、一禰宜詔刀ヲ讀進、一同伏拜、式終ル。此圖ハ、式ノ初、一禰宜幕ニ入ル所ナリ。

杵築祭荒祭拜所圖

禰宜冠衣權官、權禰宜冠衣子良、副物忌父冠衣清酒作、酒作内人淨衣御巫内人、御鹽湯内人冠衣出納内人張白先一殿ニ參集シ、次ニ作所ヨリ明衣及袴ヲ受取リ、禰宜荒祭宮遙拜所ノ前ニ列立シテ權官以下ノ參進ヲ待ツ。次ニ一同玉串行事所ニ參列シ、御巫内人祝詞ヲ申シ拍手二端、次ニ四御門ニテ御鹽湯ヲ受、禰宜ハ石壺ニ就キ、權官以下式ノ如ク着座シ、一禰宜祝詞ヲ申シ次ニ新宮内院ニ參入ス。此圖ハ、禰宜明衣白杖ヲ受取リテ、荒祭宮遙拜所ニ至リ、權官以下ハ五丈殿前ニテ作所ヨリ明衣白

杖ヲ受取ル所ナリ。

杵築祭内院圖

前圖ニ引續キ新宮内院ニ參入シ、禰宜ハ新殿ニ向テ着座シ、權官權禰宜ハ西ノ方、子良副物忌父以下ハ東方ニ着座ス。座定テ禰宜座ヲ起チ、白杖ヲ取テ、新殿乾ノ御柱根ヨリ、北、東、南ニ回リ、西ノ御棟持柱ニテ築納ム。祝歌二首アリ、御柱一本ヲ三回リ、歌三反ヅ、唱フ。先一二三四五禰宜一同ニ築キ、六七八九十禰宜一同ニ築奉ル。次ニ權官以下五六人ヅ、築回リ、子良副物忌父、六位ノ輩、高欄回リノ御柱根ヲ勤仕スルナリ。此圖ハ禰宜ハ新殿御床下ニ勤仕、權官モ追々進ム所、又東ノ方ニ侍座スルハ、御巫、御鹽湯、大麻ノ三内人冠、各衣出納張、白人長衣ナリ。

杵築祭大和舞圖

前圖新殿御柱ノ杵築終リ、瑞垣御門外ニ退出シ、同御門南軒ノ下ニテ、禰宜相列リテ倭舞ヲ奉仕シ、次ニ一同伏拜、杵築祭式全ク終ル。

讀合齋王候殿圖

遷宮ニ付御奉納ノ神寶ヲ點檢スル式ナリ。神寶調進ハ、古昔ハ神寶使ノ之ヲ持參セラレシヲ、近例神宮作所ニテ擔當シ、京都職人ヲシテ調製セシメ、齋王候殿ニテ之ヲ點檢スルナリ。但シ内間充分ノ點檢ハ既ニ済ミ、全ク古式ニ從テ點檢ノ儀式ヲ行フノミ。又神寶使ハ辨官參向セラレル筈ナレドモ、中世以降ハ辨代ナリ。殿内東ニ北座南

向スルハ神寶使辨代東祭主、西ニ北座南向スルハ太政官史、史生、左官掌、
右官掌各帶、東西側ニ東向スルハ大官司並ニ小作所各帶、東南側ニハ禰宜、
東上北面ニ列座ス各帶、禰宜ノ前ニ點檢ノ座ヲ設ケ、政所北面大物忌父南面
侍ス各衣、其西ニ唐櫃ヲ昇居ウル所ヲ設ケ、衛士直垂相對シ、殿外ニ權官
二人冠衣出納二人張白北面ニ、又家司冠衣目代二人上同南向キニ侍ス。又齋
王候殿ノ東妻ノ假屋ニ着座スルハ、幕府名代、警固奉行神宮ニ當近ノキ警
命固、造宮奉行山田奉行ナリ。此圖ハ小作所目錄ヲ讀ミ、唐櫃ヨリ衛
士御品ヲ取出シ、大物忌父、政所之ヲ點檢スル所ナリ。點檢ノ様ハ齋
王候殿内ナルヲ以テ、圖様ニ寫シ難シ、豐受大神宮ノ方ニ准ジテ、之ヲ
推知スベシ。

川原祓所圖

此圖ハ、川原祓所ニ於テ、神寶以下、遷御ニ供奉ノ職員ヲ祓フ處ナリ。
場内ニ昇居ラレタル唐櫃ハ、神寶御裝束ニシテ、禰宜權官十二人、玉串
大内人一人、大物忌父一人、束衣帶執物權禰宜、神宮政所、目代各衣冠、清酒
作内人、酒作内人自一藤衣冠、御筥作内人、御笠縫内人淨衣、御巫内人衣冠、行
御鹽湯、大麻内人、鎔取内人冠各衣、子良、母良等座ニ著ク。御巫内人修
祓ノ後、神寶以下ヲ祓清ム。終テ又御鹽湯内人、大麻内人同ジク之ヲ
清ム。此圖ハ御巫内人ガ神寶ヲ祓清ムル所ナリ。又場外ニ出納張白
人長等ノ小内人侍セリ。○本圖禰宜ノ裝束ヲ掛明、

川原祓内院運送圖

川原祓終リ、引續キ禰宜及昇殿ノ權官、玉串大内人、又物忌父一藤、直ニ
新宮ニ參リテ内見ス。時ニ清酒作、酒作内人御裝束唐櫃ヲ、新内院ニ

作内人等蒞道ヲ敷ク。次ニ遷御。其次第、奉遷使ハ前陣ニ、宮司ハ後陣ニ扈從シ、禰宜六員御體ヲ奉戴シ、禰宜四員玉串内人、大物忌父ニ扶ケラレテ相殿ヲ奉戴ス。執物權禰宜召立文ノ如ク、前陣後陣ニ供奉シ、新殿ニ遷御シ奉ル。此圖ハ正殿出御ノ所ナリ。

遷御新殿渡御圖

前圖ニ引續キ、新殿ニ遷御シ、禰宜ハ供奉シテ殿内ニ參入シ、奉遷使、宮司御階ノ東西ニ對立ス。又召立ニ隨ヒ神寶ヲ殿内ニ奉納ノ儀、總テ古殿内院ノ如シ。殿内ノ儀典畢リ、禰宜退下シテ、階下ノ座ニ着ク。一禰宜ハ御扉ヲ閉テ退下ス。次ニ奉遷使階下ニ進テ祝詞ヲ讀進ス。次ニ御鑑御封終リ、一同奉拜、式全ク終ル。此圖ハ新殿ニ着御ノ所ナリ。翌日一社奉幣アレドモ、其儀恒典祭祀ト異ナラズ、仍テ略ス。

賀參圖

幕府名代參拜ノ儀式ナリ。右ハ造替遷宮ノ大典無爲結了シタルニツキ、賀儀ノタメノ參宮ナルガ古例ナキコトニシテ、全ク武家ヨリ御用途ヲ支出スルニ至リシ當時時勢ニ伴フ新儀式ナリ。因テ最近例即嘉永遷宮ノ事蹟ノ概要ヲ掲ゲテ參照トス。

嘉永二年九月二日、御遷宮ノ翌日、幕府名代武田大膳大夫賀參アリ。時ニ警固奉行鳥羽城主稻垣攝津守、造宮奉行山田奉行河野對馬守一同參宮執ニレモ東二鳥居邊ニ於テ、御鹽大麻通行ナガラ之ヲ振掛ク。第四御門ヨリ中重ニ進、八重榊ノ邊ニテ神馬告刀私祈禱ムアリ。先是禰宜束帶、明衣、木綿鬘、内院ニ參入シテ、高案ヲ階下ニ居エ、其東ニ候ス。幕府名代玉串御門へ參進ノ頃、二禰宜瑞垣御門ヲ出デ、幕府進獻ノ眞太刀

ヲ請取り、之ヲ案上ニ備フ。名代拜終テ、一禰宜正殿ニ奉納ス。次ニ世嗣進獻ノ作太刀ヲ、二禰宜案上ニ備フ。名代代拜アリ、終テ二禰宜殿内ニ奉納ス。此間警固奉行造宮奉行ハ、御垣内ノ便所ニ候ス。幕府名代、代拜終テ、兩奉行ト共ニ、自分ノ拜ヲ奉仕ス。武田大膳大夫、稻垣攝津守、河野對馬守自分ノ太刀馬代ヲ獻ズ。各自ノ師職之ヲ奉獻ス。拜終テ禰宜祝詞ヲ述べ、萬度御祓熨斗鮑ヲ三人ニ贈ル。幕府ノ師職山本大夫之ヲ披露シ、式終ル。此圖ハ、幕府進獻ノ太刀ヲ備ヘタル所ニシテ、正殿ニ向ヒ座スルハ、幕府名代及兩奉行、東ナルハ禰宜、又御階ノ下ニ侍座スルハ、御鑰取内人及出納ナリ。

古物渡圖

古神寶ヲ新殿ニ渡シ奉ル式ナリ。禰宜束帶、明衣、冠、出納、張、白、人、長、衣、布ヲ率キ、中重神拜

物忌父一薦各束帶、明衣、冠、出納、張、白、人、長、衣、布ヲ率キ、中重神拜後、御内ニ參入シ、禰宜御階ノ前ニ着座シ、次ニ手扶禰宜及權官ヲ具シ昇殿、御扉ヲ開ク後、各昇殿。次ニ禰宜五人、手扶四人古殿ニ至リ、禰宜殿内ニ入り、手扶大床ノ左右ニ候ス。權禰宜執物ノ爲メ階下ニ候ス。禰宜殿内ヨリ神寶ヲ出シ、手扶之ヲ取傳へ、權禰宜之ヲ受取テ、新殿ニ運ビ奉リ、新殿ニテハ禰宜殿内ニアリ、手扶權官大床又ハ階上ニアリ、之ヲ殿内ニ取傳へ、禰宜殿内ニ式ノ如ク飭リ奉ル。此古物渡ハ、時ニ副物忌及清酒作、酒作内人等モ、權禰宜ニ從ヒ之ヲ奉送スル事アリ。次ニ古殿ノ神寶渡シ奉リ終レバ、禰宜手扶ノ權官新宮ニ歸リ參リ、一禰宜御扉ヲ閉ヂ、一同中重ニ退下シ、石壺ニテ奉拜、式終ル。當日新殿ニ渡シ奉ル品々ハ、前式年ノ神寶、公卿勅使大神寶ノ御鏡等ニシテ、又玉纏、須賀利太刀ハ不殘渡シ奉ル。其外古神寶ハ見計ヒ、古殿ニ殘シ置ク御例ナリ。

豐受大神宮式年遷宮舊式祭典

造宮使拜賀饗膳圖

造宮使ハ、既ニ皇大神宮部ニ説明ノ如シ。山口祭ノ前、其拜賀ノ式アリ。二鳥居御鹽如例、正宮參拜、別宮遙拜ノ後、五丈殿ニ於テ禰宜ト對揖、次ニ宣旨ヲ禰宜ニ回覽セシメ、終テ饗膳アリ。禰宜勸盃、權官陪膳ス。此圖、北座ハ造宮使、西座ハ禰宜、又殿内ニ瓶子ヲ取り、又幄外ニ膳ヲ取ルハ、共ニ陪膳ノ權官ナリ。

山口祭中重玉串奉奠圖

造宮使參宮、二鳥居及玉串行事所ノ行事例ノ如ク、禰宜先進テ、中重ノ石壺ニ着キ、次ニ宮司、次ニ造宮使同石壺ニ着キ、子良物忌父西方ニ着キ、權官禰宜ノ背後ニアリ。座定テ一禰宜、子良物忌父一薦ヲ召シテ、宮司ノ玉串ヲ奉納セシメ、同二薦禰宜ノ玉串ヲ奉納ス。一同奉拜。次別宮遙拜、木綿鬘ヲ解キ、五丈殿ニ着キ、山口祭日時宣旨拜覽及饗膳アリ。此圖ハ子良物忌父玉串奉納ノ所ナリ。

山口祭宣旨拜覽圖 一字〇(一)ノ

前圖ニ引續キ五丈殿ニ着座、宮司以下山口祭日時ノ宣旨ヲ拜覽ス。造宮使及大宮司ハ北ヲ上トシテ西ニ座シ、禰宜ハ西ヲ上トシテ北ニ座シ、權官ハ西ヲ上トシテ南ニ座シ、子良冠及子良物忌父冠各衣子良ニ續キ南座シ、別宮物忌衣淨ハ殿外東南ニ西面ニ列座ス。五丈殿ノ東妻

ノ幄内ニ着座スルハ造宮奉行下麻上ナリ。此圖ハ一禰宜、宮政所ヨリ宣旨ヲ請ケ拜覽スル所ニシテ、殿内東方ニ蹲踞スルハ、禰宜拜覽後宣旨ヲ請取ル爲メニ扣エタル使政所ナリ。

山口祭祭場行事圖

繪卷ノ標題ニ「山口祭宣旨拜覽圖」トアルハ誤。

此圖ハ、御巫、菅裁内人及頭工等土宮東南ニテ、山口祭ヲ行フ所ナリ。頭工ノ事皇大神宮山口祭岩井田山ノ圖ニ説明スル如シ。但豊受大神宮ノ頭工ハ、一頭ヨリ三頭ノ三組ナリ。兼日御巫内人櫛ノ黒木ヲ以テ、三重ノ棚ヲ作り、櫛葉ヲ以テ三方ヲ圍ム。當日五色ノ幣及供物ヲ備へ、又頭工ハ一二三ノ三頭ノ頭工、各長櫃ヲ置並へ、供物ヲ其上ニ備フ。但神前ハ南向ニ飾リ、其前ニ菅裁内人冠衣御巫内人冠衣東西ニ相對シ、其南ニ頭工ノ神饌長櫃ヲ居ウ。其前一面ニ長床ヲ敷キ、二頭ノ

頭冠衣頭代衣淨小工襖素着座シ、其西一頭ノ頭以下北へ折レ曲テ着座シ、又二頭工ノ座列ノ東ニ、三頭ノ頭以下列座シ、二頭三頭ノ座ノ間ニ、斜ニ忌鍛冶衣淨着座シ、座定テ菅裁内人櫛ノ前ニ進ミ修祓、供物以下ヲ祓清メ、次御巫内人櫛ノ前ニテ詔刀ヲ讀ミ、奉拜復座。次頭工等長櫃ノ前ニ進ミ、神酒ヲ供シ奉拜。次ニ御巫内人以下饗膳神酒ニ預リ、式終ル。此圖ハ御巫内人詔刀讀進ノ處ナリ。

御祝木禰宜點檢圖

御祝木ハ、御樋代ノ御料木ニシテ、木曾山ニテ伐採ノ次第、皇大神宮部御樋代木川曳ノ圖ノ説明ノ如シ。大湊へ着岸ノ上、宮川貯木場へ引入置キ、期日中嶋町へ曳上ゲ、山田ノ市場、伊勢街道ヲ通り、北御門口ヨリ、豊受大神宮境内へ引入ル、ナリ。幕府ノ師職春木大夫之ヲ擔當

シ、其居住地即田中中世古町^{本今町}ノ人民、素襖烏帽子ニテ之ヲ引ク。
 是天正遷宮ノ時、豊臣氏ノ師職上部大夫擔當シテ、其居住ノ岡本町ニ
 テ引タル例ナリト云フ。御祝木二本ヲ清薦ニ裹ミ、榊ヲ飾リ、又宮川
 ヨリ北御門橋迄清薦ヲ敷キ以テ車道トス。禰宜^{衣冠}子良物忌父^{衣冠}
 狩衣、御祝木北御門口附近ニ來ルノ報ヲ得、北御門橋外西側ニ列立、之
 ヲ迎フ、此圖即是レナリ。春木大夫^{長上}田中中世古町年寄^{麻上}頭、頭
 代^{麻上}小工^{襖素}及田中中世古町人夫^{襖素}御祝木ノ東側ニアリ。既ニシ
 テ宮中ニ引入レ、中重小鳥居ニ至ル、次圖ノ如シ。

御祝木玉串御門前請取行事圖

前圖ニ引續キ、御祝木中重小鳥居ニ達ス。此所ニテ御祝木ヲ春木大
 夫ヨリ請取り、作所之ヲ薦ニ裹ミ、宮廳ノ人夫^{襖素}ニテ、御内ニ引入、西寶

殿ノ御下ニ納ム。先是禰宜御内ニアリ、子良物忌父モ亦御内ニアリ。
 榊ヲ以テ飾リ終テ、禰宜拜見一拜シテ退ク。此圖禰宜中重ニテ着座
 拜見ノ如クナルモ、其實内院ニテ拜見ノ例ナリ。

御用材宮川木上圖

御用材木曾ニテ伐出シ、大湊ニ到達スレバ、便宜兩宮ノ木分ケヲ爲シ、
 豊受大神宮分ハ、宮川ノ木場ニ貯ヘ、作所擔當シ、町々ヨリ之ヲ宮中ニ
 曳入ル、ナリ。其初メヲ曳初メト稱ス。田中中世古町ノ人民、白衣
 ニテ之ヲ勤ム。是亦幕府ノ師職春木大夫ノ掛リニテ、此木ハ本作始
 メノ料材トナル。而シテ曳初メノ事終レバ、町々ノ順番定リテ之ヲ
 勤メ、其順番ヲ順曳ト稱シ、順番外ニ出デ曳クヲ夜曳ト稱ス。順曳夜
 曳共ニ、町々揃ヘノ衣裳ヲ調ヘ、其華奢或ハ分ニ過グルコトアリテ、山

田奉行ヨリ取締ノ嚴達ヲ受ケシコトモアリト云フ。町々之ヲ勤ムルハ、神領人民ノ義務ニ從フニ外ナラザレドモ、廿年一度ノ事ナルヲ以テ、隨分所謂御祭騒ギヲ極ム。此圖ハ宮川木上ケニシテ、順曳ノ町々、前夜車ヲ中嶋町迄引上ボセ置キ、早旦ヨリ出張シ、宮川木場ニテ掛リ役人ヨリ御料材ヲ請取、堤防ヲ越サセ、車ニ積載スル所ナリ。但曳初メモ宮川木上ゲハ同様ナレドモ、白衣ヲ著テ靜肅ニ之ヲ勤ム。扱宮川木上ノ後ハ、中嶋ヨリ町々伊勢街道ヲ引、豐受大神宮北御門口ヨリ引入レ、宮中ニテ掛リ役人ニ引渡スナリ。

木作始中重行事圖

造宮使參宮、二ノ鳥居ニ於テ御鹽例ノ如シ。次ニ造宮使、宮司、禰宜玉串行事所ニテ手水、並ニ宮司、禰宜玉串ヲ取ル事、亦例ノ如シ。次ニ中

重ニ於テ木造始ノ行事アリ。次ニ五丈殿ニ於テ饗膳アリ。此圖ハ中重ノ行事ニテ、造宮使ハ東石壺ニ着キ、禰宜ハ西ノ石壺ニ着キ、禰宜ノ背後ニ權官、其後ニ別宮物忌淨衣着座シ、子良物忌父ハ例ノ通り禰宜ノ西ニ列座シ、御巫内人冠衣禰宜ト子良物忌父トノ間ニアリ。又頭工ハ小鳥居ノ南ニ道ヲ挾テ着座シ、一頭二頭ハ道ノ西、三頭ハ道ノ東、何レモ頭ハ衣冠、頭代ハ淨衣、小工ハ素襖着用、忌鍛冶淨衣ハ三頭ノ次ニアリ。座定テ御巫内人料材前ニテ修祓、且大麻ヲ以テ揮清メ、忌鍛冶手鐙ヲ取り、御料木ノ前ニ進ミ、手鐙ヲ置テ、座ニ歸ル。次ニ頭三人進ミ、手鐙ヲ取り、御木ヲ打ツコト三回シテ復座。頭代三人進テ同上。次ニ三方ノ小工三人ヅ、進テ、手鐙ヲ打チ、次ニ忌鍛冶モ亦料材ノ前ニ進ミ、一拜復座。次ニ玉串奉納。次ニ一同奉拜、中重ヲ退出ス。次ニ頭工長櫃ノ前ニ進ミ、神酒ヲ供シ、且直會ニ預ル。御巫内人モ亦饗膳酒ニ預リ、酒三獻終テ、一同退出ス。造宮使、宮司、禰宜、子良物忌父等ハ、

中重退出ノ後五丈殿ニ就キ、先ヅ木作始日時ノ宣旨拜覽、次ニ饗膳アリ。別宮物忌モ亦饗膳ニ預ル。此圖ハ、中重行事ニシテ、忌鍛冶内人ノ、手鐸ヲ御木ノ前ニ置終リタル所ナリ。

御形祭圖

御形祭ノ來歴、皇大神宮部ニ説明ノ如シ。豊受大神宮ニ於テモ、作所、衣狩同附添、下、麻上子良物忌父、衣、淨及小工素、等、作事小屋ニ於テ之ヲ行フ。

地鎮祭圖

禰宜、冠、衣權官、衣、狩正宮參拜ノ後、新宮地ニ至リ、東上北面着座、權官背後ニアリ、子良物忌父、自一藤衣冠、其西側ニ東面ニ着座、作所、冠、衣頭、頭代、衣、淨禰宜

座列ヨリ下テ北面東上、小工ノ工老、素頭頭代ノ後ニアリ、忌鍛役人、素作所ノ東ニアリ。座定テ御巫、御棚、兼テ之ヲ供ス、リノ前ニ至リ修祓、地鎮ノ祝文ヲ誦ミ、奉拜復座。忌鍛役人忌鍛ヲ持テ御棚ノ前ニ至リ、地ヲ穿ツ事三鍬、一拜復座。次ニ衆員奉拜退出。此圖ハ忌鍛役人御棚ノ前ニ進ム所ナリ。又東方連臺ノ内ナルハ造宮奉行、下、麻上ナリ。

立柱祭圖

禰宜、冠、衣權官、衣、狩子良物忌父、冠、衣中重參拜畢リテ、新宮地ニ至ル。座定テ晝番内人、白、張及神酒ヲ取テ、御柱根ニ置ク。子良物忌父之ヲ御柱ノ根毎ニ奠供ス。次ニ小工及手扶人、輓轡臺ニ上リ、東側御柱三本ヲ立、エイエイト云フ。終テ小工輓轡臺ヲ下ル。子良物忌父御神拜ヲ申シ、禰宜以下奉拜退出。其後一頭小工ノ工老、長櫃ノ前ニ進ミ、柁ノ御

膳ヲ敷板ノ上ニ供シ、又神酒ヲ奠ス。敷板ハ豫メ心御柱覆ノ前ニ設ク。次ニ二頭三頭ノ工老同上。次ニ工老等直會ニ預リ退出。此圖ハ、工老東側ノ御柱ヲ立ル所ニテ、西側ノ一列ハ作所、頭、頭代麻上、小工素襖ナリ。又東ノ敷設ナルハ造宮奉行麻上ナリ。

上棟祭圖

禰宜冠、衣、狩、權官衣、狩、子良物忌父冠、衣、中重參拜ノ後、新宮地ニ至ル。座定テ晝番内人張、白、桑及神酒ヲ持出シ、子良物忌父之ヲ柱根毎ニ供シ、次ニ一頭、同頭代、工老一ノ方長櫃ノ前ニ進ミ、神酒ヲ供ス。二頭三頭同上。次一頭長櫃ノ前ニ進ミ修祓シ、幣ヲ北南東西ノ四方ニ振り、又禰宜以下ヲ振り清ム。次ニ二頭三頭同上。次ニ一二三三ノ方ノ小工三人御屋根ニ上ル。槌ヲ取り御棟ヲ打ツ事三回千歳棟、万歳棟、ト云棟、フエ、終テ歸座。

次子良物忌父御神拜ヲ申シ、禰宜以下奉拜退出ス。頭工ハ直會ニ預テ後退出ス。此圖ハ、一頭修祓ノ所ナリ。又東方ニ着座ハ造宮奉行ナリ。

木本祭圖

木本祭ハ、山口祭ト共ニ行ハル、祭典ナルコト、延曆ノ儀式帳ニ見ユル如シ。降テ鎌倉頃ハ、同日ニテ時ヲ異ニセリ。嘉祿山口祭日記ノ如キ是ナリ。其後何時ヨリカ絶テム、天文廿四年ニ豊受大神宮ノ山口祭再興アリ、又永祿九年ニ皇大神宮ノ山口祭日時定ノ事、公卿補任ニアレドモ、木本祭ノ事ナシ。蓋シ永祿天正正遷宮再興ノ時、山口祭ノミ再興アリテ、木本祭ハ再興ナカリシナリ。然ルニ豊受大神宮ニテハ、寛永遷宮ノ時、一禰宜常晨始メテ木本祭ヲ行ヒ、爾後傳ヘテ今日

ニ至ル、其事同宮慶安遷宮記ニアリ。サレド木本祭ノ名アリト雖、其實大麻所ニテ禰宜修祓シ、其麻ヲ玉串御門ニ納ルノミニテ、全ク古儀ト相違セリ。此圖ハ、大麻所ニテ禰宜權官修祓ノ所ナリ。

豊祭圖

作所、頭、頭代麻上、小工素白張一人、自余、先正宮參拜、次新宮地ニ進ム。祭場ハ豫メ波金物三枚ヲ、御階三級目ニ並べ、且神饌ヲ階下ニ備へ置ク。祭場定テ小工ノ工老進テ、波金物ヲ取テ御屋根ニ上リ、之ヲ打奉リ、下リテ着座。次ニ小工神酒ヲ供シ、終テ直會ニ預ル。

清鉦祭圖

作所冠衣手扶ヲ率キ、正宮參拜ノ後、祭場ニ至ル。祭場ハ新宮地ニシテ、豫メ三方頭工、長櫃ヲ新殿御階ノ前ニ昇居、神供ヲ其上ニ備フ。一頭二頭ハ東面ニ、三頭ハ西面ニ着座シ、忌鍛冶衣淨三頭ノ次ニアリ。作所新殿ニ向テ北面ニ着座ス。座定テ作所手扶ヲ率テ、大床ニ上リ、手扶御階ヲ下リテ、一頭代ヲ呼ブ。一頭代長櫃ノ上ニアル鑿及槌ヲ取テ、大床ニ上リ、御扉ニ御鑰穴ヲ穿奉ル。時ニ手扶御鑰ヲ授ケ、一頭代之ヲ鑰穴ニ合セ、大床ヲ下リテ復座。次ニ忌鍛冶槍鉦ヲ長櫃ノ上ニ置ク。次作所御鑰ヲ取テ御扉ヲ開キ、殿内ニ入ル。手扶頭工ヲ呼ブ。頭人三槍鉦ヲ取リ殿内ニ入、次頭代人三次小工三人ヅ、同上、清鉦ヲ奉仕ス。次忌鍛冶大床ニ於テ拜ス。次ニ作所御扉ヲ鎖シ、大床ヲ退ク。次ニ階下ニ於テ一拜退出ス。次ニ頭工、忌鍛冶神酒直會ヲ戴キ、終テ退出。

御船代祭

禰宜衣冠、權官、自餘人狩衣冠、政所、家司如例參宮ノ後、新宮地ニ至リ、禰宜御階ノ東ニ着座。先是頭工、御巫内人等參集ス。禰宜ノ着座スルニ及ビ、頭工ハ禰宜ノ次ニ北上西面ニ蹲踞シ、御巫ハ御階ノ西ノ東面ニ蹲踞ス。座定テ禰宜大床ニ上リ、御扉ヲ開ケ復座シ、權官東寶殿ニ至リ、御戸ヲ開キ、白絹ヲ覆ヒ、又西寶殿ニ至リ、此ノ如クス。次頭、頭代、小工東寶殿ヨリ、正宮御料ノ御船代ヲ昇テ、大床ニ居エ奉リ、又西寶殿ニ至リ、相殿御料ノ御船代ヲ、大床ニ昇居奉ル。次ニ御巫内人祓具ヲ携ヘ、御階二級目ニ上リ修祓ノ後、御船代ヲ祓清ム。次ニ禰宜登階、殿内ニ入リ、次ニ權官正宮御料ノ御船代ヲ殿内ニ昇入レ、又相殿御料ヲ昇入ル。殿内ノ整理終テ末座ヨリ退下シ、一禰宜御扉ヲ鎖シ、降階復座、式終ル。

御樋代洗清圖

黄金御樋代ハ、最重ノ秘器ナル事、皇大神宮部ニ説明ノ如シ。仍テ御細工落成ノ上、齋館庭中特ニ清淨ノ地ヲ擇ビ、幄舎ヲ作り、上御井ノ水ヲ以テ、一禰宜親ヲ之ヲ洗ヒ奉リ、政所之ヲ介補ス。終テ大麻所ニ於テ修祓、且之ヲ祓清メ、辛櫃ニ納メテ、淨所ニ安置ス。此圖幄内ニテ一禰宜洗奉ル所ニテ、幄外ニ候スルハ小内人ナリ。

洗清圖

子良物忌父冠衣先參宮ノ後、新殿ニ至ル。小内人上御井ヨリ水ヲ汲運ブ。一二薦登階御扉ヲ開キ、副物忌迄昇殿ス。歩板及桶杓布紙等ヲ取入レ、御樋代御船代等ヲ洗ヒ奉リ、紙ヲ以テ之ヲ拭ヒ、次ニ玉奈居御

床ヨリ壁板敷板迄悉之ヲ洗清メ、布ヲ以テ之ヲ拭フ。又敷板ハ歩板ヲ置テ後、其洗清メタル所ヲ踏ム事ナシ。終テ一薦御扉ヲ鎖シ、大床ヲ退下シ、東西寶殿、御饌殿、外幣殿ヲ洗清ム。其後洗清訖ルノ旨ヲ一禰宜ニ報ズ。此圖、衣冠明衣ヲ掛タルハ子良物忌父ニシテ、白張ニテ階下ニ蹲踞スルハ小内人ナリ。

心御柱祭圖

一禰宜、束帶、二禰宜以下十禰宜迄、衣冠、權官、衣冠、正宮參拜ノ後、新宮地ニ至ル。是ヨリ先キ御巫内人拾數日前ヨリ、御材料ノ撰擇、及ビ御柱トシテノ御飾、及奉立場所ノ準備等種々ノ勤メアリ、當夜刻限ニ至リ、一禰宜齋館ニ按内ス。禰宜參進、二禰宜以下ハ瑞垣御門外ニ、權官ハ玉串御門外ニ留リ、一禰宜ハ御巫内人ニ導レテ祭場ニ至リ、正宮御床下ニ着座。

御巫内人修祓、一禰宜モ亦修祓、且御柱見知ノ上退出。次ニ禰宜一同退出。御巫内人玉串瑞垣兩御門ヲ鎖シ、奉立ノ式ヲ勤ム。勤方ハ其職ニ非レバ知ル可カラズ。但當夜ノ神事戌時ニ始リ、御巫内人ノ事ヲ終ルハ、凡ソ寅ノ時ニ及ブト云フ。又心御柱御料木ハ、前期御山ニ於テ御巫内人之ヲ撰定シ、祭日數日前之ヲ伐採、新宮地ノ御内ニ納メ置クナリ。此圖ハ、禰宜參進、御巫内人一禰宜ヲ導テ、祭場ニ入ル所ナリ。

杵築祭大場行事圖

禰宜、束帶、權官、衣冠、政所、家司、祇承衣冠、先ヅ例所ニ整列シ、次ニ五丈殿ニ着ク。子良物忌父モ亦同殿ニ着キ、饗膳アリ。家司一本神ノ邊ニ立チ、明衣ヲ權任ニ授ク、饗膳終ルノ後、禰宜權官五丈殿ヲ退キ、手水ノ上、正宮中

重ニ至リ、一禰宜祝詞ヲ誦シ、一同奉拜、次ニ新宮地ニ至ル。此圖、五丈殿ノ饗膳終テ、禰宜手水ノ後參進、權官及子良物忌父ハ尙五丈殿ニアリ、又祇承手水ヲ禰宜ニ進メ、家司代明衣ヲ渡シ、又小内人御鹽ヲ爲ス所ナリ。

杵築祭玉串御門前圖

前圖大場行事終リ、禰宜以下新宮地ニ進ム。一頭新三鳥居ニ於テ、白杖ヲ渡シ、祇承之ヲ受取り、正權禰宜ニ頒ツ。此圖即チ是ナリ。

杵築祭内院圖

前圖ニ續キ、禰宜新殿御階ノ前ニ列立シ、權官其背後ニアリ、權任亦其

所ニ群立ス。次ニ一頭清土ヲ新殿ノ柱根ニ蒔ク。清土ハ一禰宜ノ家人、之ヲ新宮地ニ置ク。異ノ柱根ヨリ蒔始メ、南西東ノ柱ニ終ル。時ニ禰宜正殿ノ御下ニ入り、内ヨリ外ニ向テ、柱根ヲ築キ、權禰宜ハ大床ノ御下ニ入り、外ヨリ内ニ向テ、柱根ヲ築ク。其次第土ヲ蒔ク順ノ如シ。如此スル事三匝、祝歌アリ。次禰宜又正宮ニ詣リ、玉串門前ニ着座。次ニ禰宜玉串御門下ニ進ミ、雁行シテ倭舞ヲ奉仕シ、石壺ニ着キ、奉拜退出。此圖ハ、正權禰宜等、正殿及大床ノ御柱根ヲ、築固ムル所ニシテ、御階ノ南ニ蹲踞スルハ一頭ナリ。

讀合玉串行事所圖

神寶御裝束ノ事歴、皇大神宮部ニ説明スル如シ。讀合ノ次第ハ、當日掃部寮、薦若干ヲ玉串行事所ニ敷テ、讀合ノ場トス。禰宜、束、權官、冠、衣、神

宮奉行、官、權讀合役人、祇承衣、權冠、任、各參進、先ツ例所ニ整列シ、正宮參拜、別宮
遙拜ノ後、讀合所ニ至ル。先是太政官左少史、右史生、左官掌、掃部寮各
帶、讀合所ニアリ。次ニ辨代、祭、主、大宮司、各、束參宮、二鳥居御鹽ノ後手水、
正宮參拜、別宮遙拜、讀合所ニ至ル。次ニ行事官送文ヲ一禰宜ニ呈シ、
次ニ神宮奉行、子良物忌父等讀合點檢シ、御巫内人修祓、祓ヒ清メテ、式
終ル。又圖中北ナル五個ノ唐櫃ハ、神寶ノ唐櫃ナリ。

此圖ハ、神寶御裝束讀合ノ所ニシテ、先ヅ場ノ中央ナル唐櫃ハ、御裝束
ニシテ、下ナル薦ハ掃部寮ヨリ設ク。又唐櫃ノ東ナルハ神宮奉行、南
ナルハ大物忌父、又西ニ離レテ讀合役人着座シ、送文ヲ讀ム。神宮奉
行ハ送文ニ從テ、品目ヲ子良物忌父ニ授ケ、物忌父竹尺ヲ以テ、之ヲ度
ル所ナリ。唐櫃ノ北ニアルハ衛士、又立會ノ官人、辨代、大宮司及太政
官ノ史生、官掌二等ハ、讀合所ノ東即九丈殿ノ西ニアリ。唐櫃ノ西ニ
ハ禰宜、權官、北ニハ子良物忌父、稍離レテ西北ニ御巫内人、又九丈殿ノ

南ニ獨離レテ掃部寮着座セリ。又讀合所ノ南ナルハ幕府名代、警固
奉行、造宮奉行ニシテ、又讀合役人ノ傍ナルハ、籠ニ幣ヲ立タル御巫内
人ノ修祓具ナリ。

御飾圖

禰宜、權官衣冠、手、中、例所ニ整列、新幣帛殿前ニ至リ、御裝束唐櫃ヲ取出シ、
御飾ノ具等ヲ子良物忌父祓清メ、其レヨリ小内人唐櫃ヲ昇キ、一禰宜
家人扶助シ、新正殿階前ニ昇並ブ。御飾ノ具亦同ジ。禰宜新殿ノ前
ニ蹲踞、權官其後ニアリ。一禰宜登階御扉ヲ開キ、禰宜權官殿内ニ入、
子良物忌父御裝束ノ唐櫃ヲ大床ニ運上グ。權官大床ニ出デ、唐櫃ヲ
開キ、御幌ヲ取テ殿内ニ入ル。一禰宜二禰宜之ヲ掛ク。子良物忌父
御飾具ヲ權官ニ授ク。權官之ヲ殿内ニ入ル。次ニ東西寶殿ノ幌ハ、

六・七・八禰宜之ヲ掛ク。又權官燈臺二基ヲ正宮ノ大床ニ、同二基ヲ新宮ノ大床ニ置キ、其他行障、絹垣及三門幌等夫々整理シ、終テ御裝束ノ唐櫃ヲ開キ末座ノ禰宜御裝束ヲ取出シ之ヲ殿内ニ傳進シ、一二禰宜飾リ奉ル。コノ間七禰宜ハ、一禰宜ノ齋館ヨリ御樋代ヲ渡シ奉リ、八・九禰宜ハ、子良物忌父ト御饌殿ヲ奉飾ス。終テ一同殿内退出。一禰宜御扉ヲ鎖シ降階、東上北面ニ候ス。子良物忌父階前ニ立テ、御鹽ヲ以テ清メ奉ル。次ニ御巫内人階下ニ於テ修祓、式全ク終ル。此圖ハ禰宜權官殿内ニアリテ御飾奉仕ノ所ナリ。御階ノ西ニ列踞スルハ子良物忌父、其南ナルハ御巫内人ナリ。

廳舍内召立圖

(繪卷ノ標題「内讀合」ト記セドモノ上記ノ如ク改ム)

禰宜、東帶、明衣、昇殿權官、束帶、召立神主、同例所ニ整列、廳舍ニ至リ、禰宜舍内ニ、

昇殿權官ハ東檐下ニ、自餘ハ其後ニ列立。召立神主舍内ニ入り、召立柱巽ヨリ北ヲ負テ卓立シ、一二禰宜ニ對シテ召立文ヲ讀ム。次ニ政所、衣冠、家司、同御假櫃ヲ外幣殿ヨリ出シ、之ヲ南軒下高案ノ上ニ居ウ。高案ハ預メ之ヲ設置ク。次ニ荷用内人御鑰櫃、行障、絹垣、白杖、御神等ヲ出シ、小内人之ヲ持テ、家司御鑰ヲ捧ゲ、相與ニ前行ス。次ニ松持、御燈臺ノ具、次ニ政所、大床昇殿ノ權官御假櫃ヲ擎ゲ、禰宜、權官、相次デ川原祓所ニ至ル、次圖ノ如シ。

川原祓三ツ石圖

前圖ニ引續キ參進シ、木柴垣ノ南頭ニテ、荷用御鹽例ノ如シ。玉串行事所ノ西ニ至リ、禰宜東南ニ列立、權官其後ニアリ。奉遷使、祭主大宮司參宮、玉串行事所ノ南ニ至リ、西面ニ列立。禰宜拜、使司答揖。次ニ使、

司、禰宜川原祓所ニ進ム。次子良物忌父三ツ石ニ進ミ修祓、御假櫃、行障、絹垣其他、及ビ使司以下ノ諸員ヲ祓清ム。次ニ政所行障絹垣等遷御ノ要具ヲ、内院ニ送り、式終ル。

遷御内院圖

前圖川原祓終リ、奉遷使以下玉串行事所ニ至リ、奉遷使宮司ハ西面、禰宜ハ東面ニ列立。使以下木綿鬘、手水、玉串受授ノ行事、及中重參進、石壺着座、玉串奉納等例ノ如シ。次ニ禰宜内院ニ參、御階ノ下ニ候ス。次奉遷使宮司御階ノ東西ニ候シ、執物ノ權禰宜内院ニ參入シテ、東西ニ群候ス。次ニ奉遷使階下ニ進テ、祝詞ヲ讀ム。次ニ一禰宜及子良等大床ニ昇リ、御扉ヲ開ク、次ニ出御ノ式、皇大神宮ト大同少異ナルニヨリテ之ヲ略ス。

遷御新殿渡御圖

前圖ニ引續キ、新殿渡御ノ御行裝ナリ。如是ニシテ新殿ニ遷御爲シ奉リ、神寶ノ奉納、奉遷使祝詞ノ式等、皇大神宮ノ如シ。使以下中重ノ石壺ニ著キ、御鑰櫃ノ御封納ムルノ後、子良物忌父御神拜ヲ申、奉遷使以下奉拜、中重ヲ退出シ、次別宮遙拜、各木綿鬘ヲ解キ退散。

古物渡圖

禰宜、束帶、明、權官、昇殿、餘ハ衣分、束帶、明衣、手袋、政所代、明衣冠、中重參拜ノ後、内院ニ入、階前ニ候ス。次ニ登階御扉ヲ開キ、殿内ニ入、五禰宜以下殿内ニ入ル。次ニ禰宜古殿ニ至リ、古神寶ヲ新殿ニ渡シ奉ル。權官權任

之ヲ運送シ、新殿ニ於テ、權官階上ニテ取次、禰宜之ヲ奉納ス、次ニ御扉ヲ鎖シ、各中重石壺ニ着シ、奉拜シテ退出スルコト、皇大神宮ノ如シ。

賀參圖

幕府名代ノ參宮ナリ。皇大神宮部ニ説明ノ如ク、一種ノ儀式ナルニ依リ、嘉永遷宮ノ時ノ事蹟ノ概要ヲ掲グ。

幕府名代武田大膳大夫、警固稻垣攝津守、造宮奉行河野對馬守相伴ヒ參宮、二鳥居御鹽湯ノ後、荷用手水ヲ進ム。次ニ禰宜冠衣、權官、御裏御門ヨリ内院ニ至リ、御階前西面ニ列候ス、權官其背後ニアリ。子良物忌父一藤衣冠、同東面ニ候ス。次ニ名代御内ニ來ル。一禰宜瑞垣御門ニ出迎フ。名代幕府進獻ノ太刀ヲ渡ス。大床ニ供ス。又世嗣進獻ノ太刀ヲ二禰宜ニ渡ス。之ヲ供スル事初ノ如シ。次ニ名代膝突ニ

就キ代拜、權官祓ヲ進ズ。次ニ幕府名代及ビ警固造宮兩奉行、自分進獻ノ太刀ヲ獻ズ。四禰宜之ヲ階前ノ高案ニ備へ、各自拜終リ、御内ヲ退ク。四禰宜玉串御門外ニ送ル。

明治二年式年御遷宮繪卷解説

凡 例

此ノ圖ハ明治二年九月ニ行ハセラレタル式年御遷宮ノ儀式ヲ謹寫セ
ルモノナリ。該御遷宮ハ明治ノ御代ニ入りテ最初ニ行ハレタル御大
典ナレドモ、御造營工事ノ全部ハ徳川幕府ニ於テ計畫セラレタルモノ
ニシテ、神宮制度モ猶御改正ノ期ニ到ラザリシニヨリ、舊儀ノマ、ニテ
奉仕セラレタルモノナリ。

遷宮ノ御大典ハ絶大ノ御儀ナレバ、事前十餘年ニ涉リテ遂行セラル。
明治二年度御遷宮ニ於ケル諸祭儀式ノ順序ヲ述ブレバ、先式年御遷宮
ニ當リ最初ニ行ハル、祭儀ヲ山口祭トナス。此ノ祭儀ハ古ク遷宮前

三年ニ行ハレシガ、中古ヨリ遷宮前八年ニ行ハル、ヲ例トセリ。然レドモ猶此ノ祭儀ヲ行フ前五年ニ御杣山ノ御治定ヲ申請スルモノナリ。明治二年度ニ於テハ、安政五年三月廿八日木曾山ヲ御杣山ニ御治定アリソレヨリ、御杣山ニ入り、御料材ヲ調査伐採スベキ樹木ヲ確定シ、文久二年三月十五日山口祭ヲ行ハレタリ。尋テ伐木ヲ開始シ、同年十一月十四日御樋代木ヲ奉曳シ、引續キ御料材ノ奉曳ヲナシ、同三年三月十五日木造初祭、明治二年正月廿二日鎮地祭、同年二月十二日立柱祭、同二月十七日上棟祭、同六月八日御船代祭、同八月十二日内宮心御柱祭、同十四日外宮心御柱祭、九月二日杵築祭ヲ行ハレ、九月四日皇大神宮遷御、九月六日豊受大神宮遷御ヲ奉仕セリ。此ノ外ニ祭典并ニ行事多ク、此ノ繪卷ニ、新宮ニハ外玉垣ト板垣トヲ描キ、古宮ニコノ二重ノ御垣ヲ描カザルハ、足利時代ニ内玉垣、外玉垣、板垣共ニ中絶シ、寛文九年式年御遷宮ノ際、内玉垣一重ノミヲ再興セラレタル儘該遷宮ニ及ビシヲ、當度此ノ二重

御垣ノ御再興ヲ仰出サレ、造神宮使ノ外ニ營繕司ヲ置キ、至急ニ御建造アラセラレタルニヨルモノナリ。此ノ圖、實地ト多少符合セザル様考ヘラル、箇所無キニシモアラズト雖、明治二年御遷宮後既ニ六十年ヲ經過シ、且當時ノ記録不整備ニシテ、今日之ヲ詳ニ徵證スル能ハザルヲ遺憾トス。

皇大神宮遷御之圖

遷御御列ハ、既ニ古宮ヲ出テサセラレ、將ニ新宮板垣御門ニ入ラセラレントスル所ナリ。今御列ノ先頭ヨリ供奉諸員ノ次第ヲ記サンニ、板垣御門前ニ近ク、黒袍赤袍ノ衣冠ニ明衣ヲ懸ケタルハ前陣供奉ノ權禰宜、淨衣ニ風折鳥帽子ヲ著ケ御火ヲ照ラスハ内人、赤袍衣冠ニ明衣ヲ懸ケ御楯二枚、御梓二竿、錦御鞞十腰、御弓八張、金銅造御太刀十腰、

菅御翳二枚ヲ捧ケタルハ權禰宜、淨衣風折烏帽子ニテ蹲踞シツ、白布ヲ清薦ノ上ニ延フルハ内人ニシテ、上階ノ束帶ハ祭主、奉遷使トシテ警嘩ヲ奉仕セラル。傍ノ赤袍衣冠ハ祇承役、左右ノ綠袍衣冠ハ祭主政所等ナリ。其ノ後ニ左須賀利御太刀、右玉纏御太刀ヲ捧持スルハ權禰宜、次ニ權禰宜二員ニテ高ク御蓋ヲ捧ゲ、四員ニテ緋ノ御綱ヲ張ル。其ノ左右ニ權禰宜御櫛笥ヲ捧持ス。次ニ行障ハ權禰宜二員、御絹垣ハ權禰宜左右二十員ニテ奉仕ス。畏クモ正宮ノ大御靈形ハ束帶、明衣ノ禰宜十員ニ、相殿神ハ同裝束シタル權官并ニ玉串大内人大物忌父一臈ニ奉戴セラレテコノ御絹垣ノ御裡ニ坐マス。次ニ御鏡二員、鴉尾御琴二員、次ニ左右ニ金銅造御太刀十腰十員、中ニ御蓋御綱共ニ六員、菅御笠二枚二員、紫御翳二枚二員、御弓六張六員各權禰宜ニテ奉仕ス、其ノ間ニ淨衣風折烏帽子ニテ蹲踞ノ姿セルハ筵道ノ白布ヲ撒スル内人ナリ。次ニ蒲御鞞六腰、次ニ革御鞞四腰、御鉾二竿、御

楯二枚、以上權禰宜之ヲ奉仕ス。鳥居ノ下ヲ四位束帶ニテ進ムハ大宮司(當時大司教長ハ正五位ナルニ黒袍トセルハ不審)傍ノ赤袍衣冠ハ司政所赤袍束帶ハ造宮奉行ナル山田奉行、綠袍衣冠ハ鷄鳴奉仕ノ御巫内人ニシテ、重々御門下ニ、立テル綠袍衣冠ハ御幌奉仕ノ六位權禰宜ナリ。

豊受大神宮遷御之圖

遷御ノ御列將ニ新宮板垣御門ニ參入セラレントスル所ナリ。黒袍赤袍衣冠ニ明衣ヲ懸ケタル權禰宜十四人前陣ヲ奉仕ス。(明治二年遷宮召立ニナシ)次ニ白張立烏帽子ノ内人六員御火ヲ照ラシ、綠袍八員白杖ヲ捧ク。權禰宜或ハ内人ナルベシ。(明治二年遷宮召立ニナシ、以下召立ト相異ノ點多シ、以前ノ例ニヨリ描ケルモノナルベシ)。

次ニ御楯一枚、御鉾二竿、御弓二張、左ニ御胡籙一腰、右ニ御鞆一腰、次ニ白馬形一疋、左ニ御牀几、右ニ御鞆ヲ權禰宜ニテ捧持ス。白張立烏帽子ノ内人二員御筵道ヲ奉仕ス。祭主上階ノ束帶シテ、奉遷使トシテ警蹕ヲ奉仕、其ノ前右側ナルハ祇承、後ノ左綠袍ハ祭主政所、ソノ左ハ吳床、右ハ御鞍ヲ權禰宜捧持ス。中央ニ高ク捧ケタルハ御蓋、緋ノ御綱二條ヲ張リ、權禰宜四員ニテ奉仕ス。ソノ左ニ檜扇ヲ、右ニ御櫛笥ヲ、次左ニ蟠螂形御太刀一腰、右ニ鮒形御太刀一腰、次ニ玉佩篋、又御太刀ノ左ニ菅御翳一枚、右ニ紫御翳一枚、後中央ニ菅御笠一枚、各權禰宜之ヲ捧ク。次ニ權禰宜二員行障、同二十員御絹垣、同八員御櫛ヲ捧ケテ左右ヲ圍ヒ奉ル。絹垣ノ中ニハ禰宜十員、正宮大御靈形ヲ、權官并ニ玉串大内人大物忌父一薦、相殿ノ大御靈形ヲ奉シテ恭敬奉仕スルコト内宮ニ同シ。絹垣ノ後右傍ハ玉佩篋、次ハ鵝尾御琴、各權禰宜、御筵道ヲ撤スルハ内人、其ノ兩側ノ赤袍衣冠ノ權禰宜ハ、左側金銅御麻



笥一合、御篋一枚、御鞆一枚、右側ニ金銅御櫛一枚、金銅御杵一枚、金銅御木絡練一基、御鞆一枚、中央ハ御高機一具、其ノ後ニ御鉾一竿、其ノ左御鞆一腰、右御胡籙一腰、各權禰宜捧持ス。大宮司束帶シテ後陣ニ供奉ス。傍ノ赤袍衣冠ハ司政所、赤袍束帶ハ造宮奉行ナル山田奉行、綠袍ハ雞鳴奉仕ノ御巫内人ニシテ、重々御門ニ立テル綠袍衣冠ハ御門御幌ヲ奉仕セル權禰宜ナリ。

神宮遷宮記別卷繪卷物解説

皇大神宮承安元年正遷宮御裝束繪卷物

本卷は高倉天皇の承安元年に行はれたる皇大神宮式年遷宮調進御装束の繪卷の殘闕である。御櫛・御櫛篋・紫御髮結・錦御枕・九寸御鏡・五寸御鏡・御衣篋・荒祭宮散花文御裳・新羅組・柳篋・荒篋・錦御襪・錦御履・五窠文錦御衾・錦綿御被・荒祭宮散花文錦御衣・伊佐奈岐宮縷綱錦文御裳・月讀宮青纈纈御衣・小窠文錦御衾・屋形文錦御衾の順に、各その全形若くは部分を圖して色彩を施し、且その處々に仕様を註書して居る。而して此等の註記の中には、後冷泉天皇の天喜五年、鳥羽天皇の永久二年、崇徳天皇の長承二年、近衛天皇の仁平二年の皇大神宮式年遷宮、及

び尤も珍らしきは村上天皇康保元年の豊受大神宮式年遷宮の古例の見ることである。

本書は、首尾闕けて全く斷篇なるが故に、その性質を明かにすることが出来ないが、その原本が舊壬生官務家の所藏であり、且つ本巻註記の諸處に、此等の装束を本様として厨家の御藏に封納した趣を記してある處から考ふるに、本圖はこの時代御装束神寶の調進機關であつた太政官に於て、官務家の人が之を作成したものと推定せらるゝのである。従つてその圖様は至つて粗笨ではあるが、しかし何れも本様から之を實寫したものと認めらるゝが故に、斷簡ながらも此等の註記と相待つて、王朝時代に於ける御装束の本様を徴する無二の資料となるのである。殊に神宮の御装束調製に方つては、帳式並に歴代の送官符等に註記せる簡單なる仕様書と、徳川中期以降の遷宮に調進せられたる本様とに依據するの外に全く途がない今日に於

いて、本書は神宮御装束調製の参考資料として、實に貴重なる實務的價値を有するものと云はねばならぬ。

本書は奥書に見ゆる如く、嘉永二年に北川政武が御神寶檢察使として京都に赴いた際、行事官紀以昌から、舊壬生官務所藏のものを借受けて模寫したもので、紀家の原本の所在は不明だが、北川の模本は現に神宮司廳に藏されて居る。

豊受大神宮永久四年正遷宮御神寶繪卷物

本巻は豊受大神宮式年御遷宮調進御神寶の繪卷の殘闕である。御鞍・胡篋・弓・太刀・楊・錦御枕・御櫛篋・紫翳篋・御衣・韓・御弓・矢・平・胡篋・御鞞・楯・鉾・太刀_形御太刀の順に、各圖様に色彩を施し、諸處に簡單ながら仕様を註記して居る。

本書も皇大神宮承安遷宮御裝束圖と同じく、嘉永二年に北川政武が御神寶檢察使として京都に赴いた際、行事官紀以昌所藏のものを借受けて謄寫してから世に現はれたもので、この紀氏のものも北川謄寫のものも今その所在を詳にせぬが、幸に嘉永四年に北川本を寫した御巫本が現存せるため、今回之に由つて複製したのである、本書を永久四年豊受大神宮神寶之圖と題したのは、卷後に見ゆる御巫清直の識語に本くので、又この識語は、恐くは本卷中、紫翳宮の條に見ゆる「今度^{永久}任^{内宮例用雲形畢}」とある註記に依られたものと推するのであるが、しかし卷中他の註記を調べると、本卷は必ずしも永久四年御遷宮の神寶を圖したのではなく、其後に於ける各時代の神寶圖を収録したものである事は、例へば、御櫛宮の註記に、「一合土宮」と見え、永久四年より拾年を隔て、宮號宣下せられたる土宮の事が記されてあり、又銚の條の註記に、「今度^{喜寛}金銅作之」或は建曆送官符云々な

どあるを見て明かである。

而してこの収録の時代が何時であるかはもとより明かでないが、本書と全く兄弟關係にある次の御裝束繪卷の奥書に、「延徳四年卯月五日以官務古本寫之畢」とあるから、少くともこれより以前官務家の人の収録に係ることが知らるのである。但し鮎形太刀の條に^{慶長}寛永^{寛永}二度云々の註記のあるは、之は恐くは行事官紀孝昌の奥書に見ゆる寛永四年新卷謄寫の際の書入で有らう。かやうに本卷の内容は複雑であり、又その圖様も至つて少く、斷篇ではあるが、皇大神宮承安御裝束繪卷の解説に云へる如く、神宮御神寶の故實を徴する上に於いて、殆ど他に適確なる徴證のなき今日、本卷の實務的價値の貴重なることは云ふまでもないのである。

豊受大神宮永久四年正遷宮御装束繪卷物

本卷は豊受大神宮式年御遷宮調進御装束の繪卷の殘闕にして、前の御神寶圖と相對するものである。菅翳・菅翳袋・紫翳柄・紫翳袋・菅笠裏様・菅笠袋・菅笠・紫蓋・紫蓋袋・泥障・鞍・散物・鍔・鞭・村濃差繩・鞍袋・白馬形・鐵鎖・御櫛・錦御杵・鞆袋・鎰・鈎匙の順に、同様に色彩を施し註記を加へたものである。永久四年御装束圖と題した事の次第は、前御神寶圖と同じく誤りで、その註記に風宮の事が見えて居るを以ても徴し得らるべく、恐くは本圖は前神寶圖と同じく、壬生官務家に、古くから各時代調進御装束神寶の本様見取圖の如き斷篇があつたのを、延徳以前に於て、同家の人の手によつて各二卷に収録されたものと解すべきである。

本書は御神寶圖と同じく、紀氏所藏のものを北川政武が寫し、更に嘉永四年に御巫清直の謄寫せしめたものが現存し、之に由つて複寫し

たのである。



昭和八年五月二十日印刷
昭和八年五月三十日發行

神宮遷宮記附錄繪卷物解説
豫約出版

編纂者 神宮司廳

京都市一條通衣笠園
表現社代表者

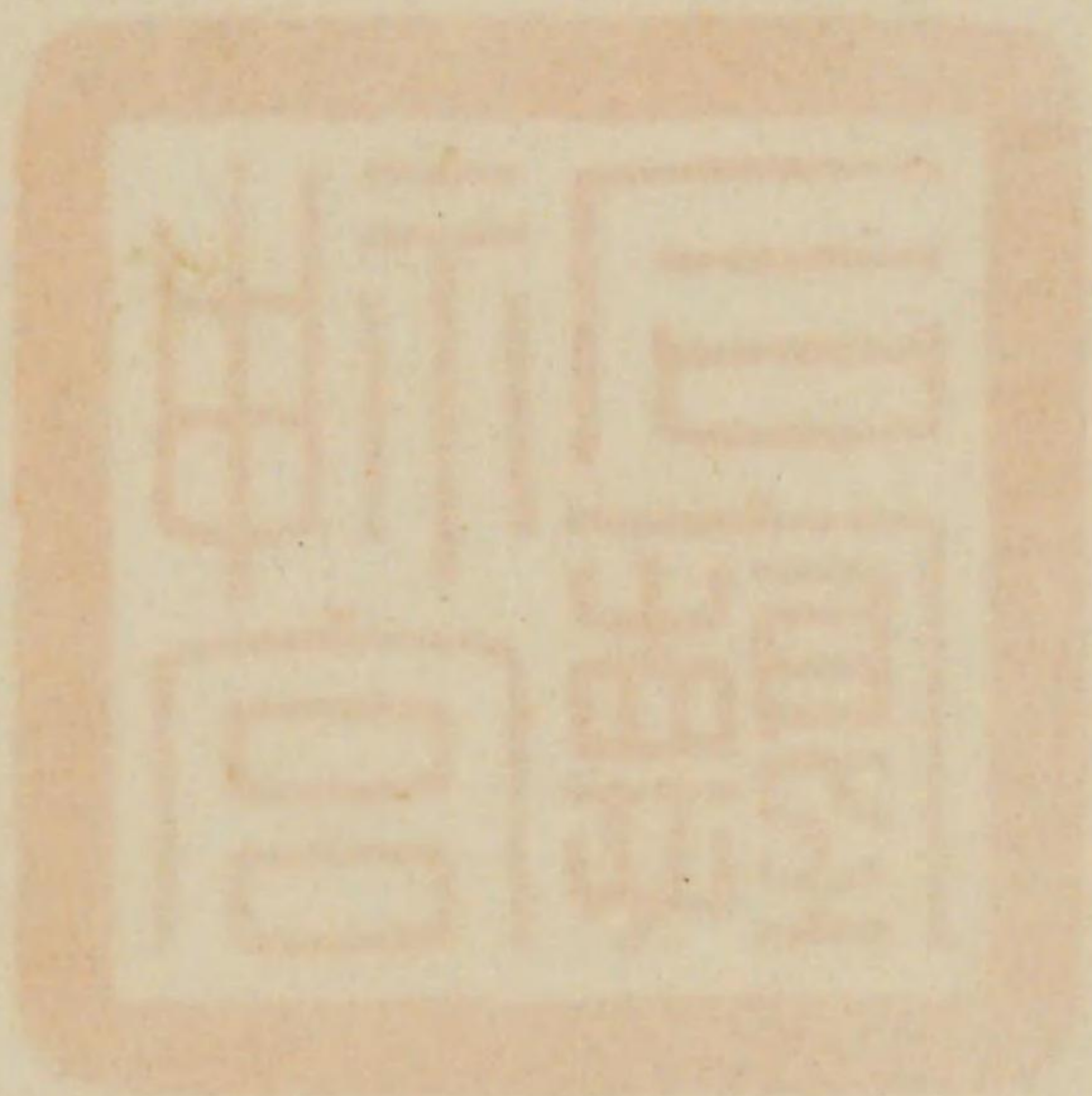
發行者 後藤亮一

京都市柳馬場三條南
株式會社似玉堂代表者

印刷者 福井松之助

京都市一條通衣笠園

發行所 表現社



592
160

